

『1Q84』

【3部作】

～ 視点を変えて読む ～

村上 春樹

先月3月のオススメ本は、『読書の技法』（佐藤優 著）でしたが、そのなかに、『1Q84』をどう読むか？という記述がありました。

村上春樹さんの代表作の一つである、『1Q84』は、2つの世界が並行して進むパラレルワールドの傑作というのが一般的な評価です。



しかし、佐藤優さんの視点は全く違っていました。『1Q84』で描かれている2つの世界は実はただ1つで、同じ世界にいても、人によって見えるものと見えないものがあるというのです。まさに、佐藤さんが主張する「内在的論理」の視点がそこにあるのだと思いました。

そこで、改めて「内在的論理」を意識しながら読み返してみました。確かに、主人公の「天吾」と「青豆」は、別々の世界で生きていたのではなく、「あることがきっかけで、同じものが見えるようになった」、という解釈はあり得るかもしれません。

時には、全く異なる視点で同じ小説を読み返す、それも意外と面白いと感じました。